

本研究は、人と人との繋がりを深めることにより地域再生を促進することを目的として研究を進めてきた。「地域の人々」と「芸術を演ずる人」そして「芸術によって地域と繋がる人」という地域と身体に重きを置き調査を進めた。調査を行う中で想像以上に地方の過疎化、限界集落の多さを目の当たりにし改めて問題の大きさ改めて考えさせられた。

主に調査をした地方は福山、高知、仙台、岩手。関西においては木津川市、また関東においては展示会を中心に地方を取り上げる展示や企画を考察した。

まず地方において、これまでの取り組みに多く見られてきた、空き家の再生プロジェクト。これまでは若者が住まいやすい、訪れやすいシェアスペースなどが主流であったが、近年 SNS の発達とともに、その場の地域性を生かした建物をカフェなどとして再利用するコンバージョンが多く見られた。コンバージョンは用途を変更することで価値を再生することであるが、建物そのものを残すことで地域性を生かした新しい価値を見出す試みは、まさに地域に新しい風を吹かせる起爆剤となっている。例えばスターバックスはリージョナルランドマークストアとして日本の風情を生かした地方の建物をそのまま生かした店舗を実現し、地域に根付いたスターバックスを展開させ話題となっている。元々の地域性や歴史を生かした建物に、現代の建築家が新しい価値を見出す。そこには現代の芸術家の一つの新しい指名を感じるとともに、新しい芸術家の活躍の場「仕事」の可能性も感じている。筆者は近年芸術家特に、舞台関係における若者の就職率の不安定さと向き合って改善策を考えてきた。

エンターテイメントとしての仕事のみではなく、現在日本の抱えている問題の中で芸術家の活躍できる場があるのではないかと調査してきた。

本研究において現地調査を行なった、福山において神勝寺には洗庭と言う体感型瞑想施設がある。彫刻家名和晃平と建築チーム SANDWICH による作品である。福山の静かな山に佇む地域に溶け込んだ芸術作品として注目を集め、日本各地、海外からも見学者が訪れていた。同じ境内には建築史家・建築家の藤森照信による松堂も見ることができる。この規模の芸術作品は都心部では考えられない大きな規模である。

また調査にて訪れた高知においてはチームラボによる高知城アートプロジェクトのインスタレーションが行われていた。こちらにも長蛇の列が出切っており、賑わいを見せていた。元々存在するものに新しい価値を見出す、ここには共通点がある。そしてこれだけネット社会で手軽に情報を共有できる世の中となった。その場に行かなければ味わえない体感型も需要を持つ事になる。

調査する中で、ここ数年で芸術による地域再生プロ

ジェクトが一気に加速したことは明らかに考察できた。しかしながら舞台、特に人件費のかかる人による表現企画はやはりまだまだ少ない調査結果も見出された。その中でも、人の身体によるプロジェクトもいくつか調査することができた。ここ数年市役所の地域再生メンバーが中心となって企画を多く打ち出している木津川市。木津川アートでは様々な作家を起用していた。美術、建築、映像、写真などを始め舞踊家のパフォーマンス、公演式の作品も見られた。

海住山寺においてはお寺をプロジェクトマップピングするイベント、キャンドルナイト、そして演奏、ダンスによるコンサートも開催され多くの来場者数を出している。

空間としての作品は長期的に人を集客する効果がある。また身体を用いた作品（音楽や舞踊など）時間を共有する作品は、指定した日時に人を集め、多くの人々と同じ時間を共有する特別な企画には適していると感じた。それぞれの長所、短所をうまく融合させ企画を進めると芸術はさらに地域と深く結びつき、人と人をつなぐことができると着目している。

また地方の取り組みと比較するために都心部の展示にも着目し考察してきた。地方においては壮大な作品が実現可能であることに対して、都心部においては、限られた展示スペース。主に美術館のスペースをいかに作者の世界観に変えられるか、そちらの葛藤を感じた。様々な展示を考察した中で特に印象深かったのが塩田千春による魂が震える展。森美術館とは思えない圧巻のインスタレーションであった。そして彼女の展示歴を見て納得した。彼女の展示歴の数が凄まじい数であったからである。これまでの作品発表は美術館に留まらずベルリンを中心に様々な「場」を経験してきた記録を見ることができた。その二十五年の作品を森美術館に展示したから、壮大なインスタレーションが完成したのだと痛感した。現在の作家は、まず発表する場が少ないことから、経験が少ない。そして都心部においては同じような、美術館、舞台の空間しか存在しない。その環境から益々創造性に欠けていく。今こそ地方における芸術活動の需要が示されると考えている。なぜなら現在はネットによって場を選ばず世界に発信ができる自由がある。このことから、過疎化の進む地域の地域再生プロジェクトと芸術家がつながることで、さらなる日本の新しい未来へとつながる可能性が考えられる。本研究において調査した地方にける芸術と地域再生データから、今後芸術家が活躍する場、そして日本の地方が芸術によって活性化していく計画をまとめていく所存である。